

戦前派の部員で三輪實太郎君を知らないものはない筈である。君は第一回卒業生。昭和七年母校の教壇に立った。およそ本校の試合あるところ、君の姿を見ないこととてなかった。和服に袴姿が儼に浮ぶ。親身になって部員の面倒から相談万端にのっていた。各校の野球部情報を把握し、ルールに精しく、まことに得難い存在であった。私が長期に亘って部長に安如たり得たのは、偏に君の熱誠な協力の賜である。昭和十六年十月末、長逝。無二の野球仲間、別れた感慨は「今日よりや書付け消さん笠の露」にひとしいものを覚える。合掌。



↑ 故三輪實太郎先生



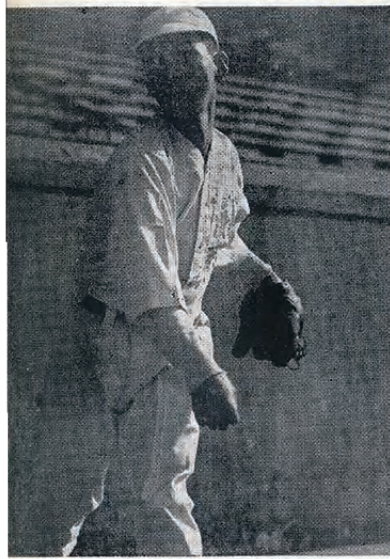
↑ 昭和十六年度選手
 (前列左) 池北 丸尾、伊藤、石井、平部、小林 (後列) 荒尾マネジャー、荒木、豆谷、三木、仁木、畠、今西、藤井、辻 (藤井寺球場前)

三輪先生・村松投手追悼式
 谷町九丁目海宝寺で。正面は中島、樋上両少尉 (昭一七・九)

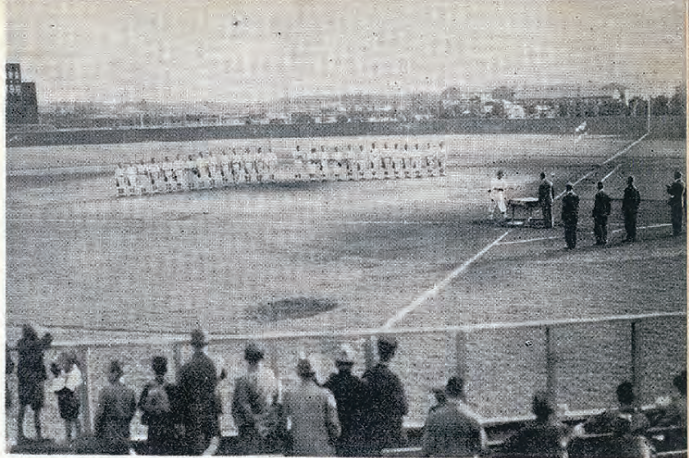
← 昭和十七年度選手
 (前列左) 丸尾、仁木、藤井、小林、川島、池北、佐久間、伊田 (後列) 村川マネジャー、今西、三木、豆谷、小西、末広、山田、荒木、(津守日紡球場)



第三次大戦の昭和十七年には戦力結集で全国大会は中止され、野球連盟は奉国団野球班と改称して秋に大阪大会を開催。今西投手健斗して優勝したが、同大会もこれを初の最後として終止符を打った。尤も本校は他校に比すと比較的後日まで練習——当時の用語で、鍛錬を続けていた。



今西練太郎投手 (昭十五～昭十八)



第一回大阪府中等校報国団野球班大会に優勝
(中もす球場)一昭一七・一〇
(右本校・左扇町商)

終戦の翌年
(昭和二十二年)
に、四年振り
で全国優勝大会は開催の運
びとなった。

甲子園が進駐軍使用のため、西宮球場を大会場に充てられた。尤も翌年からは従前通り甲子園に還ったが、当時は食糧事情が極めて困難であり、大会出場には先ずこの悪条件を解決することが急務であった。大阪予選で日新商と決勝を争い、本校としては第五回目の晴れの大会出場権を得た。球場の関係もあって、合宿を箕面に決めた。関係各位から食糧の特別に預ったことは、今なお当時の忘れ難い思い出で、感謝の念を新にする。



同上 大会優勝旗
この一回限りの
使用で、以後は
戦争深刻化のため断絶

同上 大会優勝旗
この一回限りの
使用で、以後は
戦争深刻化のため断絶



戦後再開最初の全国中学校優勝大会入場式(西宮球場)昭二一・八・一五



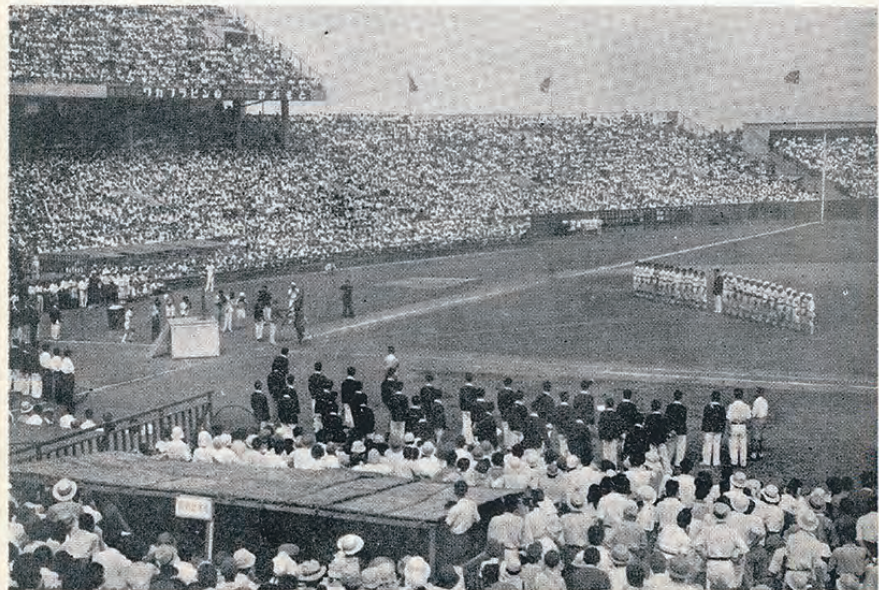
第二十八回全国中学校優勝大会優勝メダル
(吉田叙示作)

一 対和歌山中学戦(第二回戦・本校不戦一勝)
一回、島田右越三塁打、平古場の左越二塁打に還る——八・一六

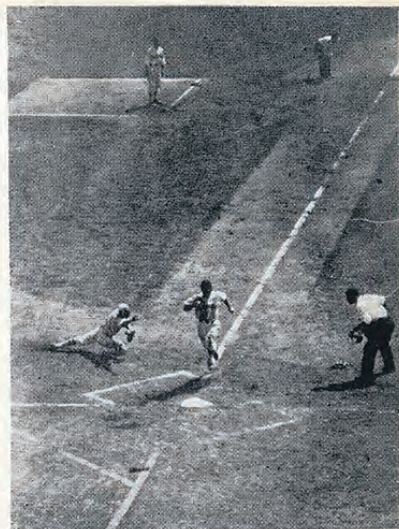




全国優勝殊勲の平古場投手ピッチング二態

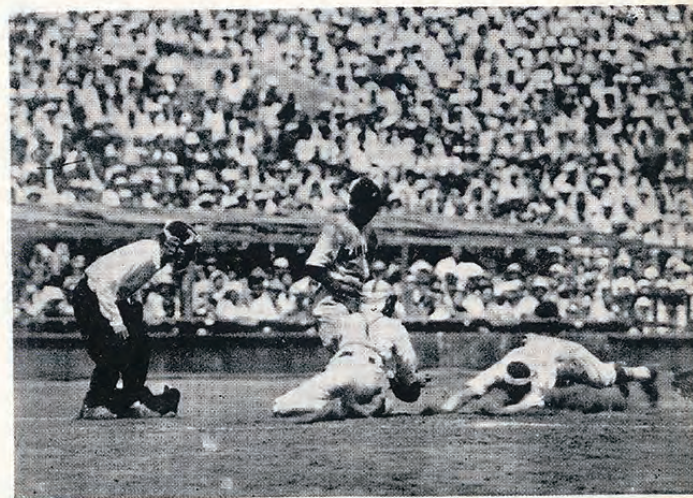


閉会式景観（西宮球場）（左）本校（右）京二中～八・二一

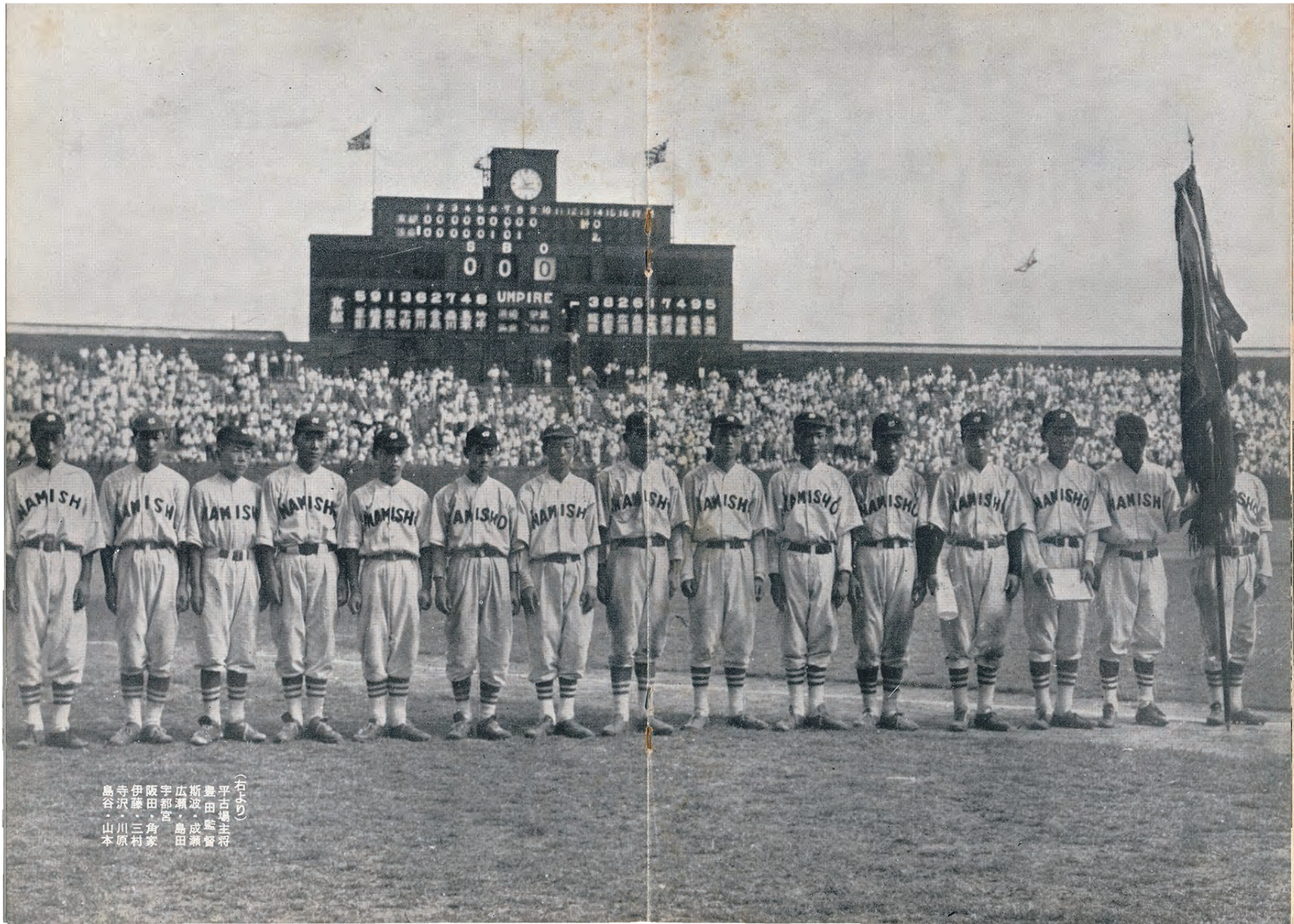


↑ 対和中戦
一回、広瀬左越ホームランに勇躍ホームイン

↑ 大優勝旗は平古場主将の手に——八・二一



対京二中優勝戦
五回、阪田広瀬とのスクイズ失に本塁に刺さる。(球審浜野氏)一八・二一
—必勝祈願をこめた白鉢巻の死斗である—



(右左)
 平古操 主将
 豊田 監督
 斯波・成瀬
 広瀬・島田
 宇都宮
 阪田・角家
 伊藤・三村
 寺沢・川原
 島谷・山本



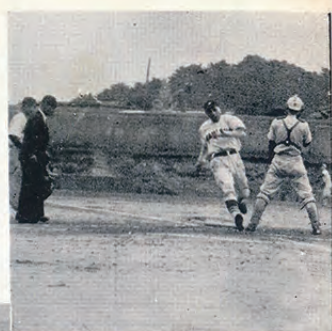
→ 栄えの大旗を掲げて場内一周
 松井朝日新聞運動部記者、平古場、川原、三村、寺沢、伊藤、角家、阪田、島田、宇都宮、ほか



→ 西村朝日新聞社取締役より個人賞を受ける平古場投手



↑ 優勝挨拶廻り (毎日新聞社で)
 (前列) 島田、平古場、斯波、宇都宮、角家、野田、校長、杉本顧問 (後列) 成瀬、広瀬、三村、寺沢、豊田監督、川原、阪田、島谷、伊藤、山本、若林 O B 会長



→ 東京高師附属中学優勝戦 (第一回国体・藤井寺球場)
 二一・一一・五
 阪田のホームイン (球審布谷氏) 編者撮影



第一回国体優勝
 平古場主将賞状を受く (編者撮影)

終戦初の全国大会に見事優勝を遂げて、地元大阪に初めて大旗をもたらししたのは無上の本懐に相違ない。この殊勲選手は何といっても平古場投手の素晴らしきにある。復興後のまだ不十分な打力水準をば

↓ 全国制覇成就記念 (校庭で)

- (前列左) 川原、三村、阪田、伊藤、角家、山本、山本マネジャー
 (後列左) 広瀬、島谷、斯波、成瀬、杉本顧問、豊田監督、宇都宮、平古場、島田、寺沢



るかに上廻る投手力の優秀さ、これに主因はかかる。彼は大会四試合を通じて奪取三振六十一 (明石中 楠本六十四)、大会開始以来第二位の記録という。更にナインが平古場の左腕に安んじて随時に長打力を發揮し、斗志満々、一戦着実攻落で進んだ、いわば綜合力が功を奏した。
 次いで第一回国体にも夏の優勝大会同様の経過で覇権獲得。戦後の疲弊で極度に不自由な時代とて旅宿もなく、入場式前夜は榎原公会堂にベンチをベッド代りに合せ並べて、霜白い夜を明かした。